

船舶事故等調査報告書

平成23年6月30日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2011門第10号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成22年9月22日 16時30分ごろ	
発生場所	宮崎県延岡市延岡港 東海灯台から真方位296° 1,300m付近 (概位 北緯32° 35.8′ 東経131° 42.2′)	
事故等調査の経過	平成23年1月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 貨物船 ^{なだよし} 灘吉丸、483トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 130375、有限会社豊予海運</p> <p>乗組員等に関する情報 船長、四級海技士（航海）</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 船底外板に擦過傷、左舷ビルジキール及びプロペラに曲損</p>	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、海砂約1,300tをほぼ満載し、船首約3.7m、船尾約4.5mの喫水で延岡港北岸壁に着岸作業中、平成22年9月22日16時30分ごろ、同岸壁付近の浅所に乗り揚げた。</p> <p>本船は、その後、自力で航行を続けた。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 西、風力 1</p> <p>海象：潮汐 上げ潮の末期</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、延岡港北岸壁に着岸作業中、同岸壁付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、延岡港が河口にあるので、流砂の堆積を予想していたが、月に1、2回着岸し、前回まで無難に着岸できていたので、今回も着岸に支障がないものと思い込んでいた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、延岡港北岸壁に着岸作業中、船長が、前回まで無難に着岸できていたので、今回も着岸に支障はないものと思い込んでいたため、同岸壁付近の浅所に乗り揚げたことにより発生した可能性があると考えられる。</p>	